

平成22年度第1回地域連絡会議

議事概要

平成22年7月28日(水) 13:00～16:00

羅臼町公民館

1. 開会
2. 釧路自然環境事務所長挨拶
3. 議事

議題1：地域連絡会議の会長等の選出について

環境省から「資料1．知床世界自然遺産地域連絡会議設置要綱(案)」について説明。

(環境省)

役員の人選について、当初は両町から会長、副会長をお願いしたいと考えていたが、事務局内や両町と相談した結果、本会議は遺産地域の保全管理と普及啓発を推進する場であるため、遺産地域管理者の行政3者が務めるのが適切であると考えている。そのため、副会長は2名とするとともに、設置要綱の事務局長に係る規定は削除したい。

<異議なし>

(環境省)

会長、副会長は遺産地域管理の行政3者から、監事は地元関係団体からと考えている。事務局からの提案としては、会長は釧路自然環境事務所長、副会長は北海道庁と森林管理局が務めるとともに、監事はシンボルマークの関係に直接関わらない羅臼町・知床世界自然遺産協議会とウトロ地域協議会にお願いできればと考えている。今後の進行もあるため、本日は会長のみを決定し、副会長、監事はそれぞれの該当団体から適切な方の選出を次回会議までをお願いしたい。

<異議なし>

(環境省)

それでは、ここからは会長である釧路自然環境事務所長が議事進行を務める。

議題2：適正利用・エコツーリズム検討会議の新設について

環境省から「資料2．適正利用・エコツーリズム検討会議の新設について」について説明。

・質問、意見なし

議題3：科学委員会の経過等について

環境省から「資料3 - 1．科学委員会の検討経過について」「資料3 - 2．エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ経過報告・今後の予定」「資料3 - 5．ヒグマ保護管理方針検討会議経過報告・今後の予定」について説明。

北海道から「資料3 - 3．海域ワーキンググループ経過報告・今後の予定」について説明。

北海道森林管理局から「資料3 - 4．河川工作物アドバイザー会議経過報告・今後の予定」について説明。

（知床ガイド協議会）

エゾシカWGがエゾシカ・陸上生態系WGになったとのことだが、エゾシカに関して、生態系に関する研究と対策とは別に考えなければならないのでは。研究している間にも自然には影響が及んでしまう。捕獲などの対策を急ぐべきであり、研究は同時並行で進めればよいのでは。先日のアメリカやドイツのシカ管理専門家の話では、アメリカ、ドイツでは森林があつての動物であるという話だった。日本では森林と動物とどちらが優先されているかあいまいである。駆除などを決断するグループと研究するグループは分けるべきではないか。WGでは駆除の決断はできないのではないか。

知床は他地域とは条件が異なるため、今後のことを考えると、昔のマタギのように常に山に入り、適度に間引きしていくような体制のほうがよい。そういう人材を育てていく施策が必要ではと思うがいかがか。

（環境省）

このWGでの議論は、当面はエゾシカに特化する。調査ばかりしているのではなく、どちらかというと、どうすれば効率的に捕獲できるかという手法の検討などを行っている。例えば、知床岬については、5頭/k㎡を暫定的な目標とし、そのための捕獲手法を検討しており、エゾシカを捕獲することについては合意が得られている。人材育成の必要性についてはWGからも指摘されているところであり、重要であると認識はしているが、マタギのような人がいてもここまで増えすぎたエゾシカは減らせないのではないか。現状は増えすぎたエゾシカを短期間で減らす対策をとることが重要と考えている。

(知床ガイド協議会)

知床岬での仕切り柵の設置目的は何か。仕切り柵以外の手法の検討は行ったのか。仮に失敗した場合、莫大な費用の責任はだれがとるのか。

ハンターも減少してきており、エゾシカに対し賞金をかけてはどうか。また、人の立ち入りを制限しているエリアに人工的な柵を設置することは、景観的におかしいのではない。調査研究に時間がかかり、早く手を打たなかったから、個体数が増えすぎている。知床半島に生息する個体を全て捕獲しても、北海道全体を考えれば全滅することはあり得ない。ヒグマも増えている。昔から適度に駆除して、バランスを保ってきた。近年は動物愛護などの影響でヒグマをとらなくなったため、市街地に出没してしまい、それを駆除している。半島の許容個体数以上の個体は駆除をするべきではないか。知床五湖の高架木道は動物にとっても自然にとってもよくない。

(環境省)

効率的な捕獲を実施するための仕切り柵である。柵の設置以外の方法も色々と検討したが、柵を設置することが最も効率的と判断した。柵の中にエゾシカが侵入し続けてくれれば先端部のエゾシカを効率的に捕獲する装置となるし、エゾシカが柵の中に侵入してこなければ知床岬の植生復元に役立つことが想定されている。この柵の設置により確実に効率的に捕獲できるかどうかは実施してみないと判断できないが、順応的管理により捕獲方法を改善していけばよく、今後、他地域で捕獲を実施する際の参考とすることができるので、無駄になるとは考えていない。

エゾシカの影響に対して早急に対応すべきだとのことだとして理解した。早急な対応を実施していきたい。

(知床エコツーリズム推進協議会)

真鯉では、囲いわなによりエゾシカの頭数管理が適切にされているように思う。エゾシカの有効活用も行っているようである。人とエゾシカの緩衝地帯として、シカ牧場という形は有効だと思っていた。様々な管理の仕方のなかで、銃器による管理は時代遅れではと感じている。真鯉での取組はどのような位置付けになっているのか。植生保護のための柵の設置は理解できる。また、ヒグマの適正な密度はどのように考えているのか。ヒグマは生態系の頂点であり、半島の許容個体以上の個体数を維持することはできない。また、エゾシカとヒグマだけを管理するという対応では不十分である。

(環境省)

知床半島の主要な越冬地として、知床岬、ルサ相泊、ルシャ、岩尾別、真鯉が挙げられているが、真鯉については、輪採制と囲いわなで個体数調整を実施してきた。また、ルサ相泊などでも囲いわなで捕獲を実施する可能性はある。ただし、わなの規模や希少猛禽類への影響など検討すべき項目がある。ヒグマは、知床半島にメス150頭が生息しているという推定を行っている。知床は餌環境が良好で、世界有数の生息密度ではないかと考え

ている。一方、人間との軋轢の問題もあり、どのような管理を行うのか、地域ともよく議論をする必要がある。

エゾシカの増加がヒグマや、花の開花、昆虫類など生態系全体にも大きな影響を与えている。来年度からは鳥、昆虫などの調査も実施したい。ヒグマとエゾシカが管理対象と考えているが、生態系全体のバランスをうまくとる必要がある。地域のご協力もお願いしたい。

(知床エコツーリズム推進協議会)

河川工作物の遡上モニタリングについて、改良の効果は既に確認したのか、これからするのか。

(北海道森林管理局)

工事後3年間は遡上モニタリングすることになっており、現在も実施中である。ルシャはH18改良。3年間モニタリングした結果、河川工作物APからは概ね良いのではという評価を得ているところ。

議題4：知床世界自然遺産地域年次報告書について

環境省から「資料4-1.年次報告書の作成に係る基本的考え方」「資料4-2.平成21年度知床世界自然遺産地域年次報告書」について説明。

(知床エコツーリズム推進協議会)

北海道が実施しているチエンベツ川の魚道の設置工事について、写真を見る限り近自然工法には見えない。土木現業所は近自然工法に取り組んでいたと思うが、本工事において近自然工法に関する検討は実施したのか。

(北海道森林管理局)

現地でWG委員とも議論したが、防災上、工作物の撤去はできないことから、魚道を設置することとしている。

(環境省)

この場所は河口に道路があるなど防災の要素が強いため、魚道となったと推察される。周囲の状況や勾配など様々な要件があり、様々な工法がある。

(北海道)

平成9年に、公共事業における内部指針を作成し、環境への配慮を位置づけている。この河川については昭和42年に設置したダムであり、いかに効率的に目的を果たすかという観点で設置されている。

環境省から「資料4-3.知床世界自然遺産地域における平成22年度ハード事業の実施予定について」「資料4-4.知床世界自然遺産地域における平成22年度ソフト事業の

実施予定について」について説明。

(羅臼町・知床世界自然遺産協議会)

ソフト事業のNo. 24の羅臼湖調査は単年度ということだが、どのような内容を予定しているのか。また、適正利用・エコツーリズム検討会議における羅臼湖の検討に係る今後の予定はどうなっているのか。

(環境省)

適正利用・エコツーリズム検討会議の個別会合は11～12月に予定している。ご指摘の調査では、植生の観点から歩道の脆弱な箇所をの把握などを行いたい。

(羅臼町・知床世界自然遺産協議会)

これまでは民間も含め、道の事業により共同で補修作業を実施していたが、今年は何の事前の連絡もなく、共同の補修が実施されなかった。さらに、突然、歩道の一時通行止めなどの措置が取られた。今の状態では、木道自体がむしろ植生破壊になっている。緊急の検討が必要であるが、次回の会議は11月である。

羅臼湖の問題は長い間、放置されてきた。五湖では高架木道の設置など様々な取り組みがなされているが、羅臼湖の問題は忘れ去られている。一時通行止めなどの措置で対応する段階ではない。調査結果や検討結果を待ち、来年度以降もずっと放置されていくのか。今の状態はなさない。非常に羅臼側が放置されている印象を持っている。羅臼岳登山道も羅臼側は整備が十分ではない。羅臼側は利用させない方向なのではと思える。住民の協力による羅臼湖の補修事業も今年から突然中止されている。きちんと説明してほしい。

(根室振興局)

羅臼湖歩道については、平成4、10、11年に国の補助制度により整備し、北海道が管理してきた。破損がひどい状況は把握しており、修繕は道で行っている。しかし、再整備については、平成18年度以降、国立公園の特別保護地区内の整備は国において実施すると整理されており、道としては国に再整備の要望を出している。

今年度の当初は破損がひどい状況であり、横断道路に雪解け水が流れたこともあり、6月中は看板を立てるまで自粛をお願いしたところ。看板の設置も終了したため、7月以降は自粛要請の表示は撤去している。

(羅臼町・知床世界自然遺産協議会)

北海道では撤去費の負担ができないという話は聞いている。管理ができないのであれば、もう完全に手を引いてもらったほうがよい。もともとは羅臼山岳会が管理していたが、北海道に管理を任せため、このような状況となってしまう、悔しい。適正に管理がされていないため、利用者も減少傾向である。木道の耐用年数は予測できるはずであり、現在でも危険な状態である。看板でごまかしているとしか思えない。仕方なくあのような状態に

なっているのなら、管理を放棄し、住民に任せるとか、環境省や林野庁に整備をお願いする等の選択肢があると思う。

適正利用・エコツーリズム検討会議は6月に会議があって、次が11月ということだが、今年への対応はどうするのか。木道、歩道の荒廃について、歩道入り口の移設について等、検討すべき課題は多々ある。今回の調査ではそのようなことは含まれているのか。

(環境省)

整備主体を明確にしていない調査ではあるが、この調査で取り付け口等に関する検討をする。利用者のニーズについても別事業で把握を予定している。長年の懸案事項だが、昨年以降、具体的な動きになってきている。十分に情報が伝わっていない部分もあるが、行政としても取組が前進するよう努力したい。

(羅臼町・知床世界自然遺産協議会)

昨年は意見交換会など何回か開催していただいた。住民にも様々な意見がある。羅臼町としての意見がまとまっていないと見えると思うが、現在、当協議会で議論しているところ。30年間放置されてきたことを踏まえ、早急に取組を行って欲しい。他で余っている板があれば、我々が担いで運ぶことができる。現在の状態は恥ずかしい。木道は植生を守るための施設であり、今からでも重要な箇所に板を引くなど、少しでも補修をすることが必要。行政の動きが遅すぎる。管理ができないのであれば、すぐにでも管理を放棄して欲しい。

(知床エコツーリズム推進協議会)

羅臼湖歩道は北海道の財産であり、道が先に撤去しないと環境省では対応ができない。北海道の財政状況が厳しく、全道的な問題となっている。知床方式を構築し、ぜひ前に進めるための仕組みを構築して欲しい。北海道は整備したくても整備できない状況である。羅臼湖は斜里側からの利用者も多い。早急な対策をお願いしたい。

(知床ガイド協議会)

ルシャ川の橋の工事は、道道の工事完了に伴って実施するというのか。硫黄山登山口からカムイワッカ間の200mほどの区間は落石の危険があるため通行止めとなっているはず。このため、知床連山の縦走客を全て失っている状態である。道道はこれまで5年間工事をしてきたが今後も通行できない。そのような状況のなかでルシャ川の橋を直すというのは理解できない。半島先端部も工作物が多くなっている。仮に自然環境が回復し、素晴らしい自然となっても行きたくないと思ってしまう。

道道については、漁業者が通行できるのであれば、他の利用者の通行も許可して欲しい。

(環境省)

本日は道路部局の担当者が参加していない。当所としては、縦走利用も大事にしたいと考えているが、一方で道路管理者としての考えもある。適正利用・エコツーリズム検討会

議においては、別途関係者で議論することとした。漁業者や管理者が通行するのと一般利用者が通行するのは意味合いが異なると思う。

(知床ガイド協議会)

この会議の場でまず決断するという方式で運営をすれば良いのではないか。各機関が持ち帰って検討するため、議論が進展しない。この会議において関係機関ごとの事情などはきちんと説明するとともに、行政の縦割りを打開し、地域の問題を解決していかなければならない。膨大な資料を当日読み、かつ回答をするというのは無理がある。例えば1ヶ月前に資料を配布し、質問書を事前に提出するというのができればよい。今のような状態では議論が進展せず、管理者にとって都合の良い状態になっているのではないか。

(環境省)

この地域連絡会議が知床議会になるような御趣旨の発言と受けとめた。合意形成のあり方はなかなか難しい面があるが、今回は道路管理者にも参加してもらうなどして、できる限りこの場で議論できるようにしたい。また、資料も以前と同様に事前に送付するなど改善していきたい。

議題5：知床における主要協議会等の連携の強化について

環境省から「資料5-1：知床における主要協議会等の連携の強化について」「資料5-2：既存検討会・協議会等一覧」「資料5-3：既存検討会・協議会等の開催状況」について説明。

・質問、意見なし

議題6：シンボルマークの使用について

環境省から「資料6-1：知床世界自然遺産シンボルマーク等管理運営部会設置要綱」「資料6-2：活動支援金会計及びシンボルマーク等管理運営細則」「資料6-3：知床世界自然遺産シンボルマーク運用規定」「資料6-4：シンボルマークの使用状況等について」について説明。

(知床エコツーリズム推進協議会)

旅行会社からパンフレットに使いたいという相談がきているが、どこに該当するか。

(環境省)

6-3参考の表の確認をお願いしたい。寄付などしていなければ「その他の利用者」に該当する。

議題7：地域連絡会議等の日程と主要議題案について

環境省から「資料 7：平成 22 年度地域連絡会議等の日程と主要議題案（予定）」について説明。

・質問、意見なし

議題 8：世界自然遺産登録 5 周年記念イベントについて

環境省から「資料 8：知床世界自然遺産登録 5 周年記念イベントについて」について説明。

・質問、意見なし

議題 9：その他

（知床エコツーリズム推進協議会）

会議の構成団体について、私はエコツーリズム推進協議会として参加が、可能であれば両町の観光協会をメンバーとしていただけないか。また、シンボルマークの協賛金はもう決定なのか。この金額だと使わないでほしいと主張しているのに等しいと思う。もう少し金額を低く設定し、広く使用してもらうことを心がけるべきではないか。

（環境省）

構成団体は両町を代表する組織として、羅臼町・知床世界自然遺産協議会とウトロ地域協議会、両町にまたがる組織として知床財団やエコツーリズム推進協議会にご参加いただいている。仮に観光協会にご参加いただいた場合、どこまで参加団体を広げるのか検討しなければならない。事務局で検討してみたい。シンボルマークについては、旅行業者のパンフレットに使用する場合など、確かに金額の設定が高いかなという印象はある。管理運営部会で引き取って議論させていただきたい。